

資料 1

前回審議会における委員主要意見とその対応方針

●第4回審議会における委員主要意見とその対応方針

委員主要意見		対応方針
テーマ	内容	
第3次安芸高田市 総合計画基本構想	資料4の3頁の事実関係について、出雲街道は出雲と姫路を結ぶ道であると認識しているが、その場合、安芸高田市を通過していないのではないかという疑問が生じる。この点について、事実関係について問題ないか、ご確認頂けるか。また、西国街道についても言及があるが、安芸高田市に近いものの、広島市内を通るため、この文脈での評価がややこじつけに感じられる。この点について、基本構想として非常に重要な部分となるため、総合計画において厳密に検証して頂きたい。	西国街道の記述は削除して、出雲街道は雲石街道に修正することで対応。 ⇒資料3の3頁目を参照
	資料4の3頁「また、他地域にも文化的影響をもたらした安芸高田市」の記載について、文章を読む限り、安芸高田市が外部に文化的影響を与えたという部分は確認できない。むしろ、独自の文化が芽吹いたという点に焦点を当て、外部からの文化を柔軟に取り入れ発展させたという表現の方が、よりストレートで自然だと思う。この点についてもご検討頂ければと思う。	「安芸高田市が他地域にも文化的影響をもたらした」という箇所は削除して、「外からの文化を柔軟に取り入れて発展させ、独自の文化が芽吹いた」という表現に修正。 ⇒資料3の3頁目を参照
	資料4の21頁、2つ目の政策目標「市民が暮らしやすいまちづくり」の冒頭部分、「市民1人1人の尊厳と自主性を互いに認め合える文化の醸成を目的とし」の表現について、自主性は他の人がやってほしいことを自ら進んで行うことを指すが、ここでは、市民1人1人が自分の考えに基づいて行動してほしいという趣旨であるため、「主体性」という言葉の方がより適切だと考える。	自主性から主体性に修正。 ⇒資料3の21頁目を参照
第3次安芸高田市 総合計画序論	1頁の冒頭、中央に矢印があり、「重点プロジェクト」と記載されているが、『安芸高田市総合計画』内に「重点プロジェクト」という言葉が登場しないため、どのように位置づけられているのかが不明確である。そこで、基本計画の説明文の中で、「基本構想を踏まえた施策の基本的な方法及び体系として、重点プロジェクトを示す」というように記載頂ければ、基本計画内に総合戦略の重点プロジェクトが位置づけることが明確になると思う。	図1「第3次安芸高田市総合計画の構成と位置づけ」において、基本計画は「市政の基本的な計画であり、基本構想を踏まえた施策の基本的な方向・体系・重点プロジェクトを示すもの」、と記載することで対応。 ⇒資料8の1頁目を参照
	14頁、「今後のまちづくりの視点」の(3)の最後に「市民1人1人が持つ価値観に沿った自己実現のための幸福の機会」と記載があるが、「幸福の機会を創造する」か、「自己実現の機会を創造する」か、表現が少し曖昧である。案があればご意見頂ければと思う。	「自己実現のための機会を創造する」という記載で対応。 ⇒資料8の23頁目を参照

委員主要意見		対応方針
テーマ	内容	
第3次安芸高田市 総合計画序論	14頁について、今後のまちづくりの視点として順番は非常に重要だと思う。1番目に「多様な主体との将来像の共有」が位置しているのは、市長が重視している部分であり、意味があると思う。しかし、2番目から6番目の並びについては再検討の余地があると考えている。特に「幸福度を高める」というテーマは、基本構想でも強調されており、もう少し上位に配置する方が適切ではないかを感じる。その後に人口に関する話題が続き、具体的な手段として公民連携、デジタル、プロモーションと進むのが良いのではないかと思う。並び順は、今後のまちづくりの重点がどこにあるかを示す重要な部分のため、再度議論をお願いしたいと思う。	「多様な主体との将来像の共有」、「市民の幸福度を高めるための取組を推進」、「新たな担い手としての交流人口・関係人口の創出」、「公民連携によるまちづくりの推進」、「デジタルの活用による持続可能な地域社会の実現」、「プロモーションの強化による共感と行動変容の促進」の順に修正。 ⇒資料8の23・24頁目を参照
	14頁、(2)の2行目に観光客や広島市からの通勤者が増加傾向にあると書いてあるが、観光客は置いておいて安芸高田市外からの通勤者の増加が強みということを書いてあるが、これがピンとこない。どんな強みが考えられるのか。	通勤者へのアンケート調査を実施したところ、「安芸高田市への移住に関心がある」と回答した方は14.1%、「仕事以外の目的で安芸高田市に「年1回以上滞在」する」と回答した方は64.1%存在。このことから、通勤者は関係人口としてのポテンシャルが高いと考えられるため、安芸高田市外からの通勤者の増加を強みとして記載。 ⇒資料8の23頁目を参照
	14頁、関係人口はさまざまな形態に分類できると思うので、アンケート調査の中で、これらを整理して分類し、現在の状況と将来的に望ましい関係人口の姿を示すことが有効だと考える。例えば、二地域居住やSNSでのつながり、また赤ちゃんが生まれた際にメールアドレスを提供するような取り組みも、関係人口の一環として考えられる。こうした具体的な事例を踏まえ、アンケートを通じて関係人口をどのように捉えるかを整理しておく、今後の施策がより明確になり、計画が進めやすくなると考える。	第3次安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、関係人口の分類を定義して、今後、安芸高田市として、特に力を入れていく関係人口のタイプを整理。 ⇒資料6の17頁目を参照 ⇒資料7の13頁目を参照
	人口データについて、流入・流出や出生・死亡の状況なども踏まえて、より詳細に整理し、視覚的にも理解しやすい形に工夫したいと思う。特にふるさと納税のデータや観光客数については、重要な指標として入れておくべきで、観光客数は、市民や県内外の観光客を分けて示し、交流人口として捉えるべきである。	以下のデータを新規で追加。 ・総人口、自然増減、社会増減の長期的推移 ⇒資料8の4頁目を参照 ・地区別の人口動向 ⇒資料8の9～11頁目を参照 ・ふるさと納税、観光客数（県内外区分あり）の推移 ⇒資料8の15頁目を参照

●第4回審議会における委員主要意見とその対応方針

委員主要意見		対応方針
テーマ	内容	
第3次安芸高田市 総合計画序論	序論は総合計画の冒頭部分で、その後に基本構想が続く形になるか。人口の流入に関しても、どのような経緯で、どの地域から、どのタイミングで入ってきているのかを明確にし、それが安芸高田市にポジティブな影響を具体的に示すことが重要である。流出だけでなく、流入の状況もしっかり分析し、その影響を強調することで、より実効性のある施策を提案できると思う。	転入者、転出者の動向について、転入前の前居住地別・年齢別の比較、転出後の居住地別・年齢別の比較等のデータを追加。 ⇒資料8の5～7頁目を参照
	15頁、(5)デジタルの活用に関して、誰の労働生産性を指しているのかが不明確であった点について、市役所の業務効率化を含む内容であれば、市役所自体の業務生産性向上を目指しているという意図で説明を加えるべきである。また、地域のデジタル導入に関しては、具体的な住民サービスの質向上について、オンラインでの手続きの簡素化や地域のデジタル情報へのアクセス向上など、具体例を挙げて説明を加えることで、より具体的なイメージを持って頂けると思う。	労働生産性は市役所の業務効率化として明確に記述する。住民サービスの質の向上は、市民の視点から行政手続きのデジタル化が可処分時間を増やし、生活の質向上につながるといった例示をあげることにより対応。 ⇒資料8の24頁目を参照
第3次安芸高田市 まち・ひと・しごと 創生総合戦略	4頁、合計特殊出生率は1人の女性が産む子どもの人数を示すが、例えば、安芸高田市で1人の女性が10人の子どもの産めば、その値は10になる。このように極端な場合も考慮すると、指標として適切なのか疑問が残る。もし改善するのであれば、15歳以下の女性人口を基にした指標の方がより適切ではないかと思うが如何か。	合計特殊出生率の代替指標である子ども女性比（0-4歳人口に対する20-44歳女性人口の比）に着目して、子ども女性比・0-4歳人口・20-44歳女性人口の3つの指標の整理を検討。 ⇒資料6の35頁目を参照 ⇒資料7の35頁目を参照
	「何人生まれているか」ではなく、「子どもの人数」をストレートに指標として示した方が、より分かりやすく、実態も捉えやすいのではないかと。子どもの数を指標とすることには十分なロジックがあると思う。出生地に関わらず子どもが安芸高田市内で育つことを重視するなら、「子どもの数」を指標に捕らえることも理にかなっていると言える。この点も踏まえ、今後の検討課題として、引き続き整理をお願いしたいと思う。	
	18,000人の人口維持を目指す上で、合計特殊出生率や技能実習生・転入者の増加について、これらの要素をしっかりと取り組むことは重要であるが、そのために具体的に何をするのかという施策の部分が見えてこない点が気付きである。例えば、ファミリー層が住みたくするような教育環境の整備、技能実習生についても、どのように受け入れ定着を図るのかといった具体的な手立てや方策が必要で不可欠です。	外国人アンケート調査結果等を踏まえて、基本目標毎に施策と成果の見取り図を作成して、今回審議会で提示する。 ⇒資料6の18-20頁目を参照 ⇒資料7の18-20頁目を参照

●第4回審議会における委員主要意見とその対応方針

委員主要意見		対応方針
テーマ	内容	
第3次安芸高田市 まち・ひと・しごと 創生総合戦略	「重点プロジェクトとは具体的に何なのか」という点が見えづらいと思う。各部署が個別に進めている具体的な事業を、いくつか連動させて一つのパッケージとしたものが重点プロジェクトだと認識している。その構造が現段階では十分に示されておらず、重点プロジェクトがどう動くのかがわかりにくい状況にあると感じている。政策・施策・事業と重点プロジェクトとの関係性を整理し、どこかで明確に示す必要があるのではないか。それにより、「このような形で連動しています」と具体的に説明できるようになると思う。	序論の1頁目で政策・施策・事業と重点プロジェクトとの関係性を整理することで対応。 ⇒資料8の1頁目を参照
	重点プロジェクトが4つ並列に示されていることで、全体像がややぼんやりして、わかりづらい印象を受ける。4年間という短期的な戦略であることを踏まえると、「この4年間で特にこれをやる」という柱を一つ最上位に掲げ、その他の取り組みはそれを補完する位置づけとした方が戦略として焦点が定まりやすいと思う。	目標人口の達成に最も寄与する「若者に選ばれるまちづくり」を基本目標Ⅰとして位置付け、重要度を基本目標の並びで表現することで対応。 ⇒資料6の7頁目を参照 ⇒資料7の6頁目を参照

●事前説明（WG）における委員主要意見とその対応方針

委員主要意見		対応方針
テーマ	内容	
第3次安芸高田市 総合計画基本構想	政策目標3「子どもたちの学びと成長に寄り添うまちづくり」における「寄り添う」は「支える」でも良いのではないか。「寄り添う」は色々な解釈が発生する。	子どもたちの学びと成長を支えるまちづくりに変更。 ⇒資料3の21頁目を参照
	受け継いでいきたい安芸高田市らしさである「とけあい、芽ぶき、一つに就る。」は、目指していきたい安芸高田市らしさではないか。	受け継いでいきたい安芸高田市らしさとするが、「とけあい、芽ぶき、一つに就る。」を全面的に出さず、「安芸高田市は市街地と田園地帯がとけあう、暮らしやすいまち」・「若者を始め、多くの市民が新たにチャレンジするまち」・「お互いの生き方や価値観を尊重し、対話の中で解決や決定がおこなわれるまち」を分かりやすく示すことで対応。 ⇒資料3の20頁目を参照
	3つの姿勢について、肯定・行動・共有とあるが、肯定だけだと否定をしないことになる。肯定も否定もあって落としどころを見出していくのがまちづくりであり、表現の検討が必要。	肯定を肯定的関心として変更し、合意形成を図っていく旨を追記し、再整理。 ⇒資料3の20頁目を参照
第3次安芸高田市 総合計画基本計画	施策内で、「具体的な施策」と「抽象的な施策」で分かれているため、統一が必要ではないか。	今後、関係各課と協議して、対応。
	大学進学率などの学力向上にも言及した方が良いのではないか。	
	公民連携では、外部の人材だけでなく、内部の人材の育成も必要ではないか。	
第3次安芸高田市 まち・ひと・しごと 創生総合戦略	結婚サポート施策は以前にもやっていたため、入れやすいのではないか。	結婚願望のある未婚者をターゲットにした施策と成果の見取り図を追加。 ⇒資料6の16頁目を参照 ⇒資料7の16頁目を参照
	外国人（技能実習生）を数値目標に入れるのは不安定要素が多いのではないか。	外国人（技能実習生）を数値目標に入れる根拠として、アンケート調査結果を追加。 ⇒資料6の19頁目を参照 ⇒資料7の20頁目を参照
	自助・共助・公助に互助も入れた方が良いのではないか。	基本目標Ⅳのテーマに互助を追加。 ⇒資料6の7頁目を参照 ⇒資料7の6頁目を参照